

大学、大学院修士課程までは哲学（社会哲学、歴史哲学）を学んでいたが、ドイツの社会学者ノルベルト・エリアスの社会学理論と出会い、大学院博士後期課程から社会学に転向する。エリアス研究で学位（社会学博士）取得後、エリアス研究を続けながら、近年は戦後日本のスポーツ政策とレジャー政策の変遷を福祉国家論、労働政策、医療・保健政策と関わらせながら検討を試みている。なお、私は、酒と音楽をこよなく愛するオッサンであり、酒を呑むと「素面（しらふ）」になるという特技を持っている。

### 1. 専門演習の目標

このゼミの目標は、参加者各人の問題意識を主体的に追求することを前提とし、ゼミ参加者各人の問題意識を参加者によって深めていく共同作業の場を構築することにある。たしかに、研究や仕事は個人の独創性から出発する。しかし、それを面白がりさらに膨らませようとする友人、同僚の協力によって、研究や仕事はさらに完成度を高め、豊かになる。それゆえに、ゼミ参加者は他の参加者の問題意識を受け止め、それに対する真摯な対応を心掛けてほしい。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

「スポーツ」は社会政策において、どのように位置づけられ、どのような「期待」をされているのか？このゼミでは、社会政策の歴史的発展および構成要素について概観しながら、そこにおいて「スポーツ」がどのように位置づけられてきたのかを考察する。議論の一例をあげるならば、「日本の社会福祉基礎構造改革以降に強化されている『予防』や『自立』という観点が、『スポーツ』とどのように結びつけられようとしているのか？」ということについて考察を試みることにある。ここで示したのは一例でしかないが、上記の「専門演習テーマ」でも示したように、「スポーツ」を社会福祉のみならず、労働問題、ジェンダー、健康増進 etc とも関わらせながら、幅広く、豊かな考察を試みたい。

### 3. 授業の進め方・内容

前期：スポーツ政策の歴史的展開（日本）について、  
著作や論文の輪読&ディスカッション  
ゼミ参加者の個々の問題意識を聞き取り（アンケートや個別面談を実施）、研究の方法、論点等を提示する。

後期：スポーツ政策の歴史的展開（海外）について、著

作や論文の輪読&ディスカッション

個人発表（前期に提示した研究の方法と論点がどのように議論されているのかを確認する）を行い、その成果をレポートにまとめる。

4 回生前期：卒業論文作成に向けた論点整理。その材料として、3 回生後期に書いたレポートを用いる。なお、論点整理の進捗状況は、個人発表で確認する。

後期：卒業論文完成に向けた指導。ゼミでの個人発表とともに個別指導を強化する。

### 4. 必要とする知識

リクエストすればキリがないが、ゼミで徹底的に鍛えますので、ご心配なく。とりあえず、このゼミが掲げるテーマに興味がある人は、思い切って飛び込んできなさい！

### 5. 関連する分野・科目・知識

欧米・日本の近現代史への基本的な知識（まずは「大学入試レベル」）を身につけ、時事問題（日本&世界情勢）への関心を常に持って欲しい。

### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

ゼミで紹介する。

### 7. 独自に付加する選考方法

特になし。

### 8. 受講生に望むこと

まず、ゼミを利用して各自にとってのオモロイことを探してほしい。そして、このゼミを通じてお互いが「生涯の友」と呼びあうことの出来る間柄を作ってほしい。その一環としてコンパ、ゼミ旅行等の企画は、大歓迎！